

虐待の対象は子どもだけじゃない！

高齢者虐待の現実

高齢者への虐待の種類は、大きく五つに分類されます。一つ目は「身体的虐待」で、暴力的行為によって身体に傷やアザ、痛みを与える行為や外部との接触を意図的、継続的に遮断する行為です。二つ目は「心理的虐待」で、脅しや侮辱などの言葉や態度、無視、嫌がらせ等によって精神的に苦痛を与えることです。三つ目は「性的虐待」で、本人が同意していない、性的な行為やその強要です。四つ目は「経済的虐待」で、本人の合意なしに財産や金銭を使用し、本人が希望する金銭の使用を理由なく制限することです。五つ目は「介護・世話の放棄・放任」で、必要な介護サービスの利用を妨げる、世話をしない等により、高齢者の生活環境や身体的・精神的状態を悪化させることです。(下段のイラスト参照)しかし、虐待は一種類だけでなく複数が重なっている場合がほとんどです。

虐待の種類で、発生件数が多いのは「身体」→「心理」→「放任・放棄」→「経済」→「性的」の順となっています。では、一体誰による虐待が多いのでしょうか？多い順に、息子↓夫↓娘となり、身近な人から虐待を受けることが多いという悲しい現実があります。

介護者が一人で介護に関する問題や悩みを抱えし、家族内で虐待に至るケースが多いというのを学びました。対策としては、他の人や専門にしている人に相談したり、デイサービスなどに依頼をしたりと、介護者のストレスや負担を少しでも減らすことも重要だと感じました。

【事例】重い認知症の母親を抱えて七年間介護を続けてきた息子は、他に誰も介護を支える人がいないため、介護ストレスを抱え、暴力をふるっていました。徐々に、日常の世話も不十分になり、脱水症状と栄養失調を引き起こし、緊急入院することとなりました。

「虐待の種類は「身体」「心理」「放棄・放任」、虐待の程度は「緊急」が該当」

二〇三HR 人権委員



殴る蹴るなどの暴力 身体
高齢者を叱りつける・無視する 心理
年金などを勝手に使ってしまう 経済
劣悪な環境で放置 放棄・放任

2学期の人権HR活動を振り返る

一学期に実施した人権ホームルーム活動のテーマや内容を覚えていますか？再度確認して、確かな知識のもと、様々な差別を解消しようとする姿勢を身につけてください。

第1学年

③身の回りの差別1
鳴門教育大学教授の阿形恒秀先生をお招きし、「仲間関係の難しさ」と大切さ」というテーマで講演をしていただきました。(左写真参照)その後、学んだことや感じたことをワークシートに記入してもらいました。



第2学年



水平社時代の荊冠旗

③近代化と差別1
明治維新以降、近代化(西洋化)が推進されていく過程において「部落差別」がより強くなっていったことを、歴史的な観点から学習しました。

第3学年

③選抜と平等2
「就職差別につながる」とされる14項目について理解を深め、差別選考により能力や適性が公正に評価されないことの不当性について考えました。

人権に関するイベント情報

れないことの不当性について考えました。また、自らの就職の際にも関わる内容であり、決して他人事ではないということを再認識しました。

④性と生を考える2
「結婚差別」の実態について学習し、結婚のあり方やとらえ方について考えました。そこから家族やパートナーを尊重することが、いかに大切かを再認識することができました。

⑤高校での人権学習を振り返って
高校での人権学習で学んだことや考えたことを各々が自分自身で確認・評価し、社会人として人権問題解決のために何ができるかを問い直すことができました。

第12回

徳島市

入場無料

人権フェスティバル

とく 平成31年1月19日(土)

14:00~19:30

どこ ふれあい健康館

講演会「笑いの中に何かが見える」

～落語から気づく人権意識～

とく 18:00~19:30 (開場17:30)

どこ 1階 ホール (定員200人)

講師 桂七福さん

落語家としての桂七福さん

落語から気づく人権意識

→1月19日(土)、ふれあい健康館で「徳島市人権フェスティバル」が開催されます。18時から講演会が行われ、落語家の桂七福さんによる「笑いの中に何かが見える」落語から気づく人権意識」です。

また、「文化の森人権啓発展」が、12月5日(水)より11日(火)まで開催されます。近代美術館ギャラリーでは識字学級生の作品などが展示されます。21世紀館では人権啓発ビデオが上映されます。